

ASDに気付いてケアするCBT ACAT研修会～事例検討会～



大島 郁葉 先生

千葉大学

子どものこころの発達教育研究センター



2023年8月20日（日）13:00 - 16:00 @千葉大学

『ACAT』は、自閉スペクトラム症(ASD)を持つ方への心理教育プログラムです。認知行動療法を用いて、自身のASD特性をよく理解することで生活しやすくなることを目的としています。この研修会では、受講者の方々から事例を募集し、ACATをどのように使用し、支援していくかを事例検討していきます。事例の募集の詳細については、お申込みいただいた方に後日お知らせ申し上げます。

講師紹介

認知行動療法やスキーマ療法といった心理療法を専門とする臨床心理士/公認心理師。自閉スペクトラム症の方を専門に心理的支援を行っている。同時に、これまでほとんど存在しなかった自閉スペクトラム症のメンタルヘルスに関する実証研究を、スティグマ、社会的カモフラージュ、マイクロアグレッションといった概念を用いて、国内の第一線で取り組んでいる。2023年度には、JST「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)」研究開発プロジェクトに採択され、発達障害の当事者の価値観をマジョリティ中心の社会に浸透させる研究活動を行っている。

開催機関

主催  千葉大学
子どものこころの発達教育研究センター



強迫性障害者を含む 自閉症者へのCBTの適用



Dr. Ailsa Russell

University of Bath

Reader, Department of Psychology

Centre for Applied Autism Research

2023年9月15日 (金) 18:00 - 20:30

@オンライン & 録画配信

自閉症には、不安や抑うつなど、メンタルヘルスの問題が高い確率で併発されることが報告されています。これらは、自閉症者の生活に悪影響を及ぼす可能性があります。認知行動療法(CBT)は、自閉症者のニーズに合わせて適応させれば、併発するメンタルヘルスの問題の治療に効果的であることが明らかとなっています。CBTのセラピストは、自身の臨床をどのように自閉症者に適応させるかについて、自信とトレーニングが不足していると報告しています。CBTの実施と提供する内容の適応については、自閉症者特有のコミュニケーションと認知の違いへの理解によってもたらされます。この講演では、自閉症者のニーズに合わせてCBTを適応させる原理と理論について、私たちのOCDとうつ病に関する臨床試験からの例を挙げながら説明します。

講師紹介

Dr. Ailsa Russell先生は、保健医療職業評議会(HCPC)登録の臨床心理士であり、BABCP公認のCBTセラピストです。大学では、応用臨床心理学修士課程(MSc in Applied Clinical Psychology)で指導されています。

また、大学の応用自閉症研究センターのメンバーであり、自閉症と併発する精神衛生上の問題に関する研究や、自閉症者のニーズを満たすために認知行動の介入をどのように適用させるのが最善かを研究されています。

開催機関



自閉症者における 社会的カモフラージュ



Dr. Laura Hull
University of Bristol
Clinical Psychology

2023年9月29日 (金) 18:00 - 20:30
@オンライン & 録画配信

本講演では、生涯を通じてのカモフラージュ行動とメンタルヘルスに関する研究に焦点を当て、現在のエビデンスベースの内容をまとめた上で、我々の理解の隔たりを明らかにします。

また、カモフラージュ行動が臨床現場においてどのような影響を及ぼすか、カモフラージュをする自閉症者に対してどのように支援者がサポートをすればよいのかを議論していきます。

講師紹介

Laura Hull先生の主な研究テーマ

- ・自閉症の男女差と社会的カモフラージュ行動
- ・自閉症者の社会的カモフラージュ行動尺度の開発(Camouflaging Autistic Traits Questionnaire:CAT-Q)
- ・自閉症と定型発達者の共感性に関するプロジェクト

開催機関



ASDとインクルージョン



野口晃菜 先生
一般社団法人UNIVA理事

2023年11月17日（金）19:00 - 20:30
@オンライン&録画配信

野口晃菜先生をお招きして、「自閉スペクトラムとインクルージョン」をテーマにお話しして頂きます。以下は、野口先生からのメッセージです。

—もし、自閉スペクトラム症のある人が多数派の社会だったら、どんな社会になると思いますか。「インクルージョン」と聞くと、「思いやりを持って相手の違いを受け入れる」「多様性を認め合う」などの印象が強いですが、本研修会では、インクルージョンを「多様な人がいることを前提とした社会をつくるプロセス」ととらえます。現在の非自閉スペクトラム症者が多数派の社会を変えていくためには、なにができるでしょうか。社会モデル、マイノリティ/マジョリティ、特権などの概念の紹介を通じて、自分たちの立ち位置を踏まえて、何ができるのかを一緒に考えます。—

講師紹介

小学校6年生の時にアメリカへ渡り、障害児教育に関心を持つ。高校卒業後に日本へ帰国、筑波大学にて多様な子どもが共に学ぶインクルーシブ教育について研究。小学校講師を経て、障害のある方の教育と就労支援に取り組む企業の研究所長を経て、現在一般社団法人UNIVA理事として、学校、教育委員会、企業などと共にインクルージョンの実現を目指す。文部科学省新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議委員、経済産業省産業構造審議会委員、東京都生涯学習審議会委員、日本ポジティブ行動支援ネットワーク理事など。共著に「差別のない社会をつくるインクルーシブ教育」(学事出版)「発達障害のある子どもと周囲の関係性を支援する」(中央法規)などがある。

開催機関

主催



千葉大学

子どものこころの発達教育研究センター



自閉スペクトラムとハラスメント



本田秀夫先生

信州大学医学部
子どものこころの発達医学教室



大島郁葉先生

千葉大学
子どものこころの発達教育研究センター

2023年12月15日（金）19:00 - 20:30

@オンライン&録画配信

自閉スペクトラムを考えると、自閉スペクトラムの方個人についてはもちろん、その個人を取り巻く社会について考える必要があるのではないのでしょうか。本研修会では、医療、臨床心理の領域の第一線で、自閉スペクトラムの方の支援および研究活動をなさっているお二人の先生に、「自閉スペクトラムとハラスメント」というテーマで本音で語り合ってください。これからの支援、研究において、目指すべき方向を考えるきっかけになれば幸いです。

講師紹介

本田秀夫先生: 発達障害の早期発見、早期介入から成人期の支援まで、あらゆるライフステージにわたる臨床経験をもつ発達障害の専門家。知的障害を伴わない自閉症が稀ならず存在することを世界で初めて実証した疫学調査は国際的にも評価を受けている。現在は、大学を拠点として児童青年精神科医の育成と臨床研究体制の整備に取り組んでいる。(引用元:Medical Note)

大島郁葉先生: 認知行動療法やスキーマ療法といった心理療法を専門とする臨床心理士/公認心理師。自閉スペクトラム症の方を専門に心理的支援を行っている。同時に、これまでほとんど存在しなかった自閉スペクトラム症のメンタルヘルスに関する実証研究を、スティグマ、社会的カモフラージュ、マイクロアグレッションといった概念を用いて、国内の第一線で取り組んでいる

開催機関

主催



千葉大学

子どものこころの発達教育研究センター

